

南三陸町「森里海ひと」の地域資源ブランド化推進事業

1. 地域資源活用プラットフォーム構築事業
2. 森里海協働基盤整備支援事業
3. 地域資源活用人材育成事業
4. 国際認証等取得促進事業

平成28年度事業報告

1. 地域資源活用プラットフォーム構築事業

地域資源プラットフォーム設立準備委員会を組織し、地域資源の付加価値向上を実現するための組織の在り方や、地域ブランドの育成・管理を達成するための運営方法等について検討を行いました。委員会では漁師や林家、地元企業、産業団体、行政など多くのプレイヤーが参加し、相互連携の必要性を改めて認識しました。

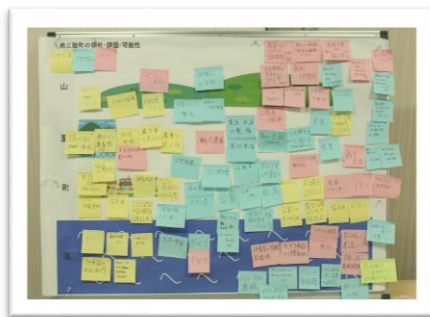
その中で、森里海のつながりを知り、南三陸らしい価値をつくり、鮭的人材育成（ふるさとに回帰する）を推進するといったミッションが掲げられ、次年度の活動に向けて、基本構想に関する提言書を策定しました。

南三陸地域資源プラットフォーム設立に向けた提言書（基本構想）

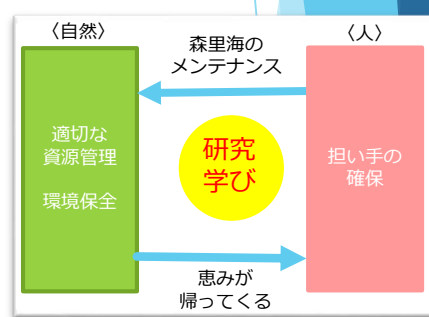
※町ホームページにて公開



（委員会の様子）



（地域資源と関わりを議論）



（持続可能性イメージ図）

参加者からの声

参加した委員から「子どもが親の仕事に誇りをもてる」「親が子どもに自慢できる仕事」そんな地域にしたい！そんな委員の発言から、地域の仕事の魅力を再認識することができました。

A S CやF S Cといった国際認証制度を取得し、人と環境に配慮した持続可能な産業を目指すことの社会的重要性はわかりましたが、経済面では販売価格や生産者の所得向上など多くの課題も浮き彫りになったと思います。経済的にも持続できるよう、本プラットフォームを通じて消費者、企業など多くの理解者を増やし、新しい価値を生み出すのもプラットフォームの役割だと感じました。

2. 森里海協働基盤整備支援事業

(1) コ・ワーキング施設改修事業

バイオマス産業都市構想の賛同起業である合同会社MMRが、若手起業家や町内で活動する団体が新しい事にチャレンジしやすい環境を整備するため、貸事務所がない町内に、震災後に建てられた木造のモデルハウスを改修したシェアオフィスを完成させました。

木の香りがするシェアオフィスはMLABと名づけられ、早速、移住して町内で起業を検討していた映像クリエイターが入居したほか、短期で訪れるインターン学生が利用するなど、新たな活動と交流の場が生まれました。

成果：平成28年度創業件数 1件



(薪ストーブが置かれた事務所内)



(1階の会議スペース)



(イベント利用の様子)



(2階シェアオフィスの利用者)

利用者の声

田舎には小さな貸し物件が少なく、コワーキングワーカーや2拠点で仕事を考えている方には事務所経費の負担が少なく、利用者同士の交流もあり、新たなビジネスにつながることもあります。

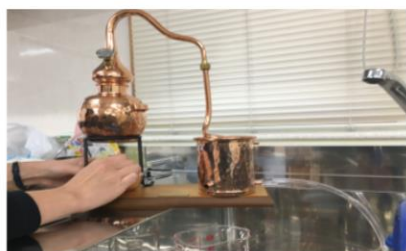
それから、このオフィス整備に、町外の企業からの寄付が充てられていることを知り、自分も映像やWEBといった形で地域の魅力を発信し、応援していきたいと思います。

(2) 異業種協働知識共有事業

地域資源を活用した名産品考案・商品事業化ワークショップ

未利用資源を活用した商品考案を通じ、アイデアを出し合い、専門家のアドバイスのもと新たな事業化に向けた取り組みの始動を目的に活動を行った。

この活動を通じ大学等との共同研究を始動し、地域の未利用資源を活用した商品開発の一步を踏み出しました。



(3) 子ども地域資源発信事業

① 高校生による循環の取り組みのPRと循環マップの作成

南三陸町では家庭から排出される生ごみを南三陸BIO（バイオガス施設）により分解発酵させ、メタンガスと液体肥料にかえる取り組みを、この取り組みにより、これまで可燃ごみとして焼却処分されていたゴミが地域の資源として再利用することができるようになりました

この取り組みに賛同してくれる住民や企業を増やすため、地元の志津川高校の生徒が生ごみ分別実施者の泊崎荘（ホテル）とアマタ社（BIO運営）から、生ごみ分別の取り組みからの資源循環の仕組みを学び、バイオカフェやリーフレット作成WEB情報発信による普及活動を実施しました。

◆高校生による南三陸GURUGURU計画 WEB版URL↓↓↓

<http://guruguru-bio.com/index.html>

成果：生ゴミ分別事業者数 1社（H28.8） → 25社（H29.3）



（高校生による実証実験）



（バイオカフェによる住民説明）



（循環イメージ図）

② 環境・循環教育事業

環境・循環教育をわかりやすく伝えるため、「森里海ひといのちめぐるまち南三陸」が学べる動画や紙芝居を作成し、実際に手作りの紙芝居を使い、町内の保育所や学校で環境循環教育の講座を実施しました。

紙芝居講座に参加した親子からは、「生ごみの分別はゴミの減量化のために実施してと思っていたが、バイオガスから電気が作られ、液体肥料は安心安全な農作物として生まれ変わり、子どもたちが食べるおいしい食材になって戻ってくるというストーリーを知れば、やらなくちゃ！という思いになりました。」という声をいただきました。

◆製作動画 「いのちめぐる」 シリーズ5作品（Youtube上で公開）



（製作動画）



（熱心に聞き入る保護者）



（製本された手作り紙芝居）

3. 地域資源活用人材育成事業

意欲ある事業者を南三陸町地域資源の付加価値を向上させるためのリーダーと位置づけ、将来の南三陸産業を発展させる人材として育成していくため、セミナー・ワークショップを開催し、期待だけでなく課題も見えた内容となりました。

第1回 一次生産者が輝く無限大の可能性

第2回 ターゲットを絞りマーケティング戦略を考えるワークショップ

第3回 心から愛される6次産業化ブランドを作る

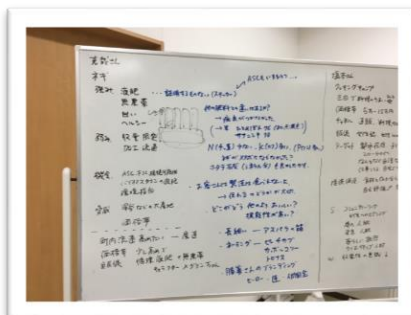
第4回 いのちめぐるまち×サイエンティスト

全4回に渡るセミナーを開催し、参加者が各講師の発表に熱心に耳を傾け、積極的に取り組む姿勢から、第4回の講演を行った東北大学の研究チームからは来年度以降も共同研究を実施したいとの申出があり、産学官の連携体制が構築されました。

参加者の声

多分野にまたがる研究の場・交流の場として南三陸のフィールドが活用できそうだと感じましたが、楽観だけでなく地域の持っているポテンシャルを発見しても誰がリスクを負って動くのか？しっかりと地域の中で確立しなければという危機感も感じました。この研修会で出来た人のつながりを活かしていきたいです。

内容もバリエーション豊富で大変勉強になり、多面的な機能を意識した社会にすべきと感じました。



4. 国際認証取得促進事業

南三陸町を代表する地域資源となりうるASC・FSC認証を取得した資源について、基本情報の収集、整理などを行い、今後のブランド化や認証取得の横展開への課題や効果（メリット・デメリット）の調査を実施しました。

◆RESASによる地域経済基礎分析結果を公開

※町ホームページ上で公開

